

**(17) 学校ボランティア支援室****① 設置の趣旨（目的）及び組織****ア 組織設置の趣旨（目的）**

学校ボランティア支援室は、就業力を有する「活力ある学生」を育成するため、学校教育学部開設する授業科目「ボランティア体験」、「学校ボランティアA（学校支援体験）」及び「学校ボランティアB（学校支援体験）」（以下「ボランティア科目」という。）を履修する学生及びボランティア科目を担当する教員を支援すること並びに教育ボランティア及びその他のボランティアを支援することを目的に、平成23年4月に設置された。

**イ 組織の構成及び構成員等**

学校ボランティア支援室は、ボランティア科目の授業科目担当教員、学長が指名する教員、附属小学校副校長、ボランティアコーディネーター及び教育支援課学校実習推進室長等で組織し、計14人で構成されている。

なお、室長は学長が指名する室員とし、次長は室長が指名する室員とする。

**② 運営・活動の状況****ア 委員会等の開催状況**

平成28年度より、教務委員会ボランティア運営部会が廃止され、学校ボランティアに関する業務はボランティア支援室において集約し運営することとなり、学校ボランティア支援室会議を設置した。

平成30年度においては、以下のとおり4回開催した。

- ・ 第1回 平成30年4月10日（火）
- ・ 第2回 平成30年6月21日（木）書面審議
- ・ 第3回 平成30年9月13日（木）
- ・ 第4回 平成31年3月6日（水）

**イ 審議された主な事項**

平成30年度の主な審議事項は、「ボランティア体験」、「学校ボランティアA（学校支援体験）」及び「学校ボランティアB（学校支援体験）」に係る平成30年度実施計画並びにそれら授業の履修状況、第3期年次計画における学校ボランティア等の活動の体系化や参加学生への支援体制についてである。

**ウ 重点的に取組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等**

学生の被災地ボランティア団体であるABJ（Action By JUEN）による東日本大震災被災地ボランティアバスツアーは台風13号の影響で中止とした。しかし、その一週間後に西日本豪雨水害の被災地である岡山県倉敷市を訪れ、視察と学習支援、作業支援を行うことができた。帰校直後には支援物資の募集と送付、また、これに先立ち大阪北部地震や西日本豪雨水害の募金活動も行い、義援金を日本赤十字社に届けている。

次年度の組織改編に向けて、学生のボランティア活動や教育現場での実習について、実質的な論議を重ねてきた。

**③ 優れた点及び今後の課題等**

「学校ボランティアA（学校支援体験）」について、学生の参加状況は微増、欠席数がやや増えたが、全体

としては堅調な取組状況である。特別支援教育にかかわる書籍の講読課題への取組もいっそう向上し、これは評価結果に大きく影響した。次年度への課題は、ボランティアの受入時数の学校差を縮めること、中学校への参加者を増やすことである。また、学生へ守秘義務等の指導を徹底していく。

「学校ボランティアB（学校支援体験）」については、受講者数が減ったために、派遣校数や派遣率が減少した。しかし、個々の学生の取組は充実しており、1人あたりの取組時数も平均で5時間の増加である。また、学生の活動について教員による現場との情報交換も密になり、小学校からの問合せは0である。

「ボランティア体験」や「教育ボランティア」の周知や参加者増を図る目的から4月に「ボランティア説明会」を実施した。主に新入生（学部、大学院）を対象にし、「ボランティア体験」と「教育ボランティア」の参加者増をねらいとして行ったもので、内容的にも充実していた。しかし、開催時期的に他事とのブッキングを避けることは難しく、後日、要項のみを受取に来る学生が10数名に上った。また、その後の1年間の取組結果を見ると、特に参加者が増加したとは言えない。今後、開催時期と内容について特に工夫を重ねていく必要がある。

「ボランティア体験」の履修者が大きく減少した。確かな原因分析とは言えないが、ゆとりの少ない学生生活や上級生による「必修ではないという情報」、「2年になれば必修でボランティアがある」といった理由が考えられる。一方、そのような中で履修をした学生には意欲的な学生が多く、年度途中の取りやめなど、不誠実な事案も減少している。